

整 形 外 科 学

【単位数：1単位，授業18コマ，予備2コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

高橋伸典 教授（整形外科学）

2 教育目標

（１）ねらい（Ⅲ-3-b，Ⅲ-4-b，Ⅲ-5-b）

- ① コアコンピテンスの“運動器（筋骨格）系疾患の基本的診療能力”について理解をするため，知識，技能，態度を学び，その実践を通じて“プロフェッショナリズム”の修得につなげる。
- ② 運動器系の正常構造と機能を理解し，主な運動器疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学ぶ。

（２）学修目標

- ① 筋・骨格系の基本的な構造と機能について述べることができる。
- ② 筋・骨格系の基本的な疾患や外傷に対する反応について述べることができる。
- ③ 基本的な整形外科的用語を記憶し，説明することができる。
- ④ 上肢体（肩，肘，手，指関節）の機能解剖と上肢の運動について概要を述べることができる。
- ⑤ 下肢体（骨盤，股，膝，足関節）の機能解剖と下肢の運動について概要を述べることができる。
- ⑥ 軀幹の機能解剖と運動について概要を述べることができる。
- ⑦ 小児疾患（先天性股関節脱臼，先天性斜頸，先天性内反足，ペルテス病，その他の骨端症）の病態を述べることができる。
- ⑧ 脊椎疾患（変形性脊椎症，椎間板ヘルニア，脊椎分離・すべり症，後縦靱帯骨化症），外傷（脊髄損傷）について病態と治療の概要を述べることができる。
- ⑨ 椎間板ヘルニアの高位診断ができる。
- ⑩ 骨折の分類（皮下骨折，開放骨折，疲労骨折，病的骨折）について実例をあげて説明できる。
- ⑪ 骨折の特徴を年齢と比較し，それぞれの治療の概要を説明できる。
- ⑫ 骨折異常治癒（遷延治癒，偽関節，変形治癒）について述べることができる。
- ⑬ 外傷性脱臼，病的脱臼，習慣性脱臼の対比ができ，実例をあげて説明できる。
- ⑭ 靱帯損傷（前十字靱帯損傷，内側側副靱帯損傷，足関節捻挫）について病態と治療の概要を述べることができる。
- ⑮ 絞扼性神経損傷（橈骨神経麻痺，尺骨神経麻痺，正中神経麻痺，腓骨神経麻痺）の診断ができる。
- ⑯ 関節リウマチ及びその類似疾患をあげ，病態，臨床症状，検査所見，治療の概要を述べることができる。
- ⑰ 主要な変形性関節症（変形性股関節症，変形性膝関節症など）をあげ，病態，臨床症状，治療の概要を述べることができる。
- ⑱ 痛風，偽痛風，リウマチ性関節症，神経病性関節症の病態と治療の概要を述べることができる。
- ⑲ 化膿性関節炎，急性・慢性化膿性骨髄炎，骨・関節結核の病態の概要を述べることができる。
- ⑳ 骨・軟部腫瘍の概論（肉腫とは，診断の進め方，治療）を述べることができる。
- ㉑ 悪性骨腫瘍（骨肉腫），良性骨腫瘍（内軟骨腫，類骨骨腫），骨腫瘍類似疾患（線維性骨異形成症），良性軟部腫瘍（神経鞘腫），軟部悪性腫瘍（悪性線維性組織球症）の概要を説明できる。
- ㉒ 骨粗鬆症の病態を説明できる。
- ㉓ 系統疾患を列挙できる。
- ㉔ リハビリテーションの概念を述べ，理学療法，作業療法，言語聴覚療法を説明できる。
- ㉕ 保存的治療と手術的治療の概要を述べることができる。
- ㉖ 四肢軀幹の単純X線像及び正常関節のMRIを読影できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	70%	多肢選択問題を原則とし、一部記述式を含む場合がある。
レポート	○	30%	レポート提出
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は、全体から最大10%減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

評価対象の合計が60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

レポート課題は講義開始時に通達する。最終講義終了日までに課せられたレポート課題を提出すること。課題(試験やレポート)に対し理解が不十分な項目があれば確認を促し、修正等があれば適宜学内メールで案内する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
標準整形外科学	中村利孝 松野丈夫 監修	医学書院	基本的内容が網羅されている。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
TEXT 整形外科学	大鳥精司 高相晶士 出家正隆 吉矢晋一 編	南山堂	基本的内容が網羅されている。

6 準備学習(予習・復習)

教科書や参考図書より、その分野を事前に確認し講義に臨むこと(1コマあたり約0.5時間)。

1コマ目の講義で配付された資料について講義後に内容を再確認し、2コマ目以降の講義に臨むこと(1コマあたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論や講師との質疑応答などを行う。

(2) 講義の内容

各分野別に、運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。